

02・おうち着いてすぐ、甘えんぼ授乳手マンでイかせてもらう

『01・エレベーターで、えっちなキス』から数分後。

場所は、主人公の自宅の玄関。

SE1 イヴが主人公の自宅の玄関扉を開錠する音

【最初から最後まで流す】

SE2 イヴが主人公の自宅の玄関扉を開けて、閉じる音

【最初から最後まで流す】

【ごく小さな音量で流す】

SE3 イヴが主人公の自宅の玄関扉を施錠する音

【最初から最後まで流す】

主人公とイヴ、ほとんど絡み合ったままの格好でエレベーターから出て歩き、今、ようやく主人公の自宅までたどり着いたところだ。

イヴの呼吸は荒く、明らかに何かを期待している。  
主人公も、うっとりとして酔って、今にも寝そうにいい気分のくせに、イヴの期待についてだけは、しっかりと把握している。

だが、一方でイヴは『このまま主人公が寝てしまうのではないか』とも思っている。  
主人公は前述の通り、めったにお酒を飲まない。  
つまり『酔うと一体どうなるのか』というサンプルは、非常に少ない。  
だが、その数少ない事例はすべて『少しでも飲むと、酔ってそのまま寝てしまう』という結果を示している。  
だから、期待半分、諦め半分でもあるのだった。

●中央

「甘ったるい息を漏らす。

内心、早く主人公に恥ずかしくて、えっちで、気持ちいい事をしてほしくてたまらない」  
ふう………♥

「少し間をあけてから。あまあまにからかう。

『しようがない主人公の面倒を見てあげている』風に。

しかし実際は『やっと家に着いたし、早速えっちしよう♥』と言っているようなもの」

ほら、着いたよ。どすけべ先生♥

「こうは言いつつも、それだけでは終わらないことを期待している。

たとえば『本当に着替えて寝るだけだったら残念だなあ』と思っている」

お布団まであとちよつとだから。

お着替えして、寝るよ♥」

イヴ、口では困っているような風を装いながら、その声はあからさまに嬉しそうで、顔はにやにやしている。

主人公に甘えられている事が、たまらなく嬉しいのだ。

〈主人公〉

「やあだあ……♥ 着替えない♥ イヴちゃんが着替えさせてくれなきゃだあ……♥」

もちろん主人公も、そんなイヴの気持ちをよくわかっている。

なので、後ろから抱きついて、際限なく甘える。

これによって、声の距離が近づく。

●中央 至近距離

「高く甘い声で喘ぐ。首筋にキスされる」  
ん♡

「高く小さな声で喘ぐ。

背後から胸を触られ、ドキドキする。

両手で両胸を下から持ち上げられている状態」  
あつ。あつ。ああつ……♡

「※3回※ ゆっくり、荒く呼吸する」

はあ♡ はあ♡ はー……♡

「平静を装いつつも、さらに興奮してくる。

これが『えっちしよう』のサインではないかと思い、内心激しく期待している。

だがやはり『さつきはあれだけキスで盛り上がったが、そのまま寝てしまうのではないか』とも思っている」

えー……♡ 私に着替えさせてほしいの？

「少し間をあけてから。

優しく。実際は甘えられる事が、嬉しくてたまらない。

しかし、一度主人公の手が胸から離れてしまうのは残念」

ほんとに赤ちゃんだなあ♡

【少し間をあけてから。

優しく。甘いが『♥』が付くほどではない感じで】  
はい。じゃあ、お靴脱いでえ」

〈主人公〉

「んー……♥」

SE4 イヴが主人公の靴を脱がせる音

【最初から最後まで流す】

主人公、イヴに支えられる形で、言われるままに靴を脱ぐ。  
そして、脱ぎ終わるなり、再びイヴに抱きつく。

SE5 主人公がイヴに抱き着く音

【最初から最後まで流す】

【やや大きめの音量で流す】

● 中央 至近距離

「まるで驚いているようには聞こえない声で。

しかし、急に抱きつかれたので、内心では結構驚いている」

わ♥

【甘々に抗議する】

もお。これじゃ動けないでしょー♥」

〈主人公〉

「……♥」

主人公、イヴにしがみつくように両手を背中に回すと、そのままイヴの肩に頭を乗せ、鼻を近づけ、すんすんと髪の毛の匂いを嗅ぐ。

それから、耳にキスをする。

●中央 至近距離

「甘い声で喘ぐ。右耳に軽くキスされたので」

ん♥

【甘い声で小さく、嬉しそうに喘ぐ。

主人公が再び胸を触りながら髪の毛の匂いを嗅いでくるので】

や♥

【※3回※ ゆっくり、荒く呼吸する】

はあ♥ はあ♥ はあ♥

【少し間をあけてから。】

媚び媚びの甘えた声で、にやにやと嬉しそうに。ちっとも困っていない。

そのまま主人公が、自分の髪の毛の匂いを嬉しそうに嗅いでいるので」

もうさあ♥ 髪、めっちゃ嗅ぐよね……♥

【媚び媚びの甘えた声で。】

主人公がどんな返事をするのか、わかっていて聞いている。

口では『二人とも同じシャンプーを使っているのだから、おおよその匂いは同じだろう』  
と言っている。

しかし、実際には他の匂いも交じり合っていて完全に同じではないし、主人公はその『同じでない部分』を氣に入って嗅いでいるのだという事もわかっている」

同じ匂いじゃん。同じシャンプー使ってるんだからさあ♥」

〈主人公〉

「イヴちゃんの髪だから嗅ぎたいんですよ……♥」

主人公が、髪の毛をすんすん嗅いだまま、甘えた声で言う。

すると、イヴの心臓はときどきと跳ねて、嬉しくて、とても満たされた気持ちになる。これはすでに、お決まりのやり取りなのだ。

イヴはこうして、自分がいかに主人公に愛されているか、こまめに確かめては安心したいし、愛情を実感してはニヤニヤしたい。それが、イヴの甘え方なのである。

### ●中央 至近距離

「[平静を装っているがとても嬉しい。期待通りの回答があったので]私の髪だからいいの？」

「[少し間をあけてから]

満足気に笑う」

ふーん♥

「[少し間をあけてから]

じゃあいいよ？ 嗅いでも♥

「[くすくす笑う。許可を得た主人公が、本当にずっと髪の毛の匂いを嗅いでくるので]ふふ。ふふふふふ。

「[優しくあやすように。主人公の背中をとんとんする]

よし、よし♥」



SE6 イヴが主人公の背中をとんとんする音

【最初から最後まで流す】

イヴ、そのまま玄関で抱き合い、髪の毛の匂いを嗅がれている状態で、主人公の背中を、優しく、とん、とんと叩く。

イヴは靴すら脱いでおらず、めっちゃくちやな状態だ。

それでもイヴは、とても幸せな気持ちでそうしていたが……。しばらくそうしているうちに、主人公はすっかり眠くなってしまったようだ。

〈主人公〉

「んー……」

なのでイヴ、主人公の右耳にささやく。

●●右 ささやく ※マークのセリフまでささやく

「優しくあやすように。ほとんど語尾が『♡』になっているイメージで」

んー？ 眠たくなってきた？

【少し間をあけてから】

このままちよつと休む？」※

しかしここで、イヴ、主人公が水分不足気味になっていないか、あるいは気分が悪くなっていないかが気になってくる。

イヴはお酒を飲んだ事はないが、それによって起こる様々な事態については勉強している。

本当はこのままセックスしたいが、セックスよりも主人公の体調である。念には念を入れたくなってきた。

イヴ、一度正面に向き直り、主人公を見つめながら尋ねる。

●中央 至近距離

「ゆっくりと、優しく。

ここでふと、話題を変えてたずねる。

少しとはいえお酒を飲んだ主人公の、水分補給状況が心配になっている。それから、いい加減自分も靴を脱ぎたい」

てか、喉乾いてない？ 水持ってこようか♥」

〈主人公〉

「んー。大丈夫♡ ここにいてえ？」

だが主人公は『このままもう少し抱き合っていたい♡』と言わんばかりに、ふるふると首を振る。

その上、質問に答えたかと思ったら、またイヴにキスをしてきた。

●中央 至近距離

「【※1回※】キスされる。唇に触れるだけの軽いキス」

ん♡

「甘ったるく復唱する。」

靴を脱げない事は気になるが、主人公に甘えられるのは嬉しい」  
いて欲しいの？ わかった♡

「満足げに。『いてほしい』と言われた事が嬉しい」

ふふふ。

「【※1回※】キスされる。唇に触れるだけの軽いキス」

ちゅ♡

【少し間をあけてから。

甘々に抗議する。本当は、嬉しくてたまらない】

もお。さつきからエロい。

てか、ちゅーしすぎ♥

【少し間をあけてから】

私、先生が酔ってるのって、全部で三回とか四回位しか見た事ないけど。

【『最初の。初めて会った時』とは、前日譚トラク01の事を示す】

最初の。初めて会った時以外、めっちゃキスしてくるよね……♥

【※1回※ キスされる。長めに、ちゅぽつと唇をふさがれるキス】

んー♥

★【※15秒※ キスする。そのままたっぷりキスされる。

最初は何度かただ唇を重ねて、それから舌を入れていく】★★★

ん♥ ん♥ ちゅっ♥ ちゅっ……くちゅっ♥ ちゅぽつ……くちゅっ♥ ちゅっ♥

れろっ♥

【※3回※ ゆっくり、荒く呼吸する。

激しく興奮しているが、まだなんとか興奮を抑えようとしている】

はー……♥ はー……。はー……♥

【少し呼吸が荒くなりながら。

媚び媚びの声で嬉しそうに」

私もキス、好きだからいいけど……♡

【※1回※】 キスされる。長めに、ちゅぽつと唇をふさがれるキス」  
んっ♡

★【※10秒※】 キスする。そのままたっぷりキスされる。

最初に唇を重ねて、そのままずっと舌を入れられるキス」★

んー♡ ん♡ んんう……ん♡ んー……ちゅ♡ れろっ……くちゅっ♡

【※3回※】 ゆっくり、荒く呼吸する。

先ほどよりも少し落ち着いている」

はあ♡ はあ♡ はー……♡

【さらに甘々な、媚びた声で。

抗議しながら尋ねる。興奮しつつもまだ余裕がある」

もしかして先生って、酔うとキス魔になる人？

【さらに甘々な、媚びた声で。

まさか、本当にキスしているという事はないだろうが、気になる」

まさか、他の先生にもしてないよね♡」

〈主人公〉

「してないよお……♡」

●中央 至近距離

「【※1回※】キスされる。唇に触れるだけの軽いキス」

ん♡

★【※10秒※】キスする。そのままたっぷりキスされる。

いきなり舌を入れて、ねちねちと、イヴをとろけさせてくるようなキス」★

ん……♡ ん♡ ふ♡ ん……♡ ん♡ ちゅ♡ ちゅっ……ちゅっ♡

【※3回※】早めに、荒く呼吸する。

一度は抑えた興奮が、また強まってくる」

はあ、はあ、はあ♡

【はあはあ荒い呼吸のまま、甘々に念を押す。いっぱいキスされて、かなりえっちな気分。でも本当は、主人公の事を信じている】

ほんと？ 絶対？ 証明できる？」

〈主人公〉

「できないけどしないよお……♡」

●中央 至近距離

「媚び媚びの甘い声で、わざとらしく疑う」  
「ほんとお？」

〈主人公〉

「ほんとだよお♥ イヴちゃんとしかない♥♥  
一生イヴちゃんとしかキスちない♥」

●中央 至近距離

「甘々に、媚び媚びに、念を押す」  
「一生私としかキスしない？」

二人、いちやいちやと、何度も同じようなやり取りを続ける。

もちろんイヴも、このやりとりによりあまり意味はなく、たとえ酔った主人公を問い詰めた所で、有益な情報は得られない事を理解している。

それでもイヴは、しつこく尋ねたいのだ。  
自分の問いに主人公がすっかり困ってしまい、慌てて否定するさまを、いつまでも見ていたいのである。

●中央 至近距離

「※1回※ キスされる。唇に触れるだけの軽いキス」  
ん♥」

〈主人公〉

「信じてよお♥ ね？ お願いイヴちゃん♥」

●中央 至近距離

「甘ったるく。上機嫌で」

じゃあ信じてあげる♥

じゃ、そろそろお布団いこ？」

〈主人公〉

「だめー♥ このままここにいるのお♥」

●中央 至近距離

「甘々に聞き返して。」



多少は困っているが、今の主人公に何を言ってもダメそうな事も、把握し始めている」  
えー？

【少し驚いて。ここで、主人公がよろけてくる。

声はまるで動じていないように聞こえるが、内心かなり驚いている」  
わっ。わ」

SE7 イヴが主人公に抱きつかれたままよろけて、壁にぶつかる音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

〈主人公〉

「イヴちゃんしゅき♥ だいしゅき♥ 今日もお迎え来てくれてありがとう♥  
もうイヴちゃんと離れたくにやい♥」

●中央 至近距離

「息づかいだけで表現する。

ため息について呆れているようなふりをしつつも、ものすごく嬉しい。  
正直な所、この言葉を聞きたかった」

ふう……♡」

イヴ、その言葉を聞いて、ものすごく嬉しくなってしまう。

その一言で、多少の事なら全部許してあげたい気分だ。

イヴ、そんな自分を内心『ちよろい』と思いつつも、主人公のおねだりを全部聞いてあげる事にする。

### ●中央 至近距離

「ちよつと呆れつつも、優しく、ゆっくりとあやす。嬉しい。

一言『好き』と言われただけで許してしまう自分を『ちよろいなあ』と思っている」

はいはい♡もおわかったよ♡

このまま抱っこしてあげましょうから、しばらくここで休みまちょうね♡

ほら、ここ♡ここ座ろ？」

〈主人公〉

「うん♡」

イヴ、この隙にそーっと靴を脱ぐと、再び主人公を抱きしめ、その背中を、優しくとん

とんしながら、玄関からすぐの壁によりかかる。

迷惑がっているふりをしながらも、本当は、ずっとでもこうしていたい。

寝室へ移動する事で甘い雰囲気さがれてしまうより、このまま玄関でいちやいちやしたい。

そう思い始めている。

なのでイヴ、すぐその下の床に座った状態で話し始める。

SE8 イヴが自分の靴を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

SE9 イヴが主人公の背中をとんとんする音

【最初から最後まで流す】

イヴ、右耳にささやく。

●●右 ささやく ※マークのセリフまでささやく

「耳元で、一言ずつ優しく、ゆっくりとあやす。」

『よし、よし』が『よち、よち』に。

『頑張りました』が『頑張りまちた』と赤ちゃん言葉になる』  
よち、よち。

今日も頑張りまちたねえ。

先生偉い。いい子。大好きだよ。

【※1回※ 右耳にキスする】

ちゅ♡」※

SE10 イヴが主人公の背中をとんとんする音2

【最初から最後まで流す】

イヴ、ここまで言い終えると、主人公の頭を自分の胸にうずめさせる。

いわゆる『おっぱい枕』をしてあげながら『このまま寝てちゃってもいいし、私のおっぱいに反応して、えっちな気分になってくれてもいいなあ……』と思っている。

●中央 やや上

「【※ここから※マークまで、ゆっくりと、ほとんど寝そうになっている主人公が眠ってしまいうまで、ぽっぽつと独り言を言っているようなイメージ。】

ちよつとだけわざとらしく、呆れたように。でも、実際はちつとも呆れていない。むしろデレデレなのが露骨になっている」

あーあ。先生、外ではかっこいいのになあ♡  
クラスにも、先生推しの子とかいるんだから。

【少し間をあけてから。

呆れているようなふりをしつつ、実際は『そんな主人公を知っているのは自分だけ』という強い優越感がある】

でも、帰ったら甘えん坊だし。めっちゃエロいし。毎日恥ずかしい事してくるし♡

【呆れているようなふりをする。『もたなくて』は『保たなくて』という意味。

実際は少しも嫌がっていないし、困っていない】

私、身体もたなくて困ってるんだけど♡

【少し間をあけてから。

あからさまな棒読みで。『今日もされちゃうんだろうなー』は『今日も恥ずかしくてえっちな事をされちゃうんだろうなー』の略。

内心ではその『恥ずかしくてえっちな事』をされたくてたまらない】

あー。今日もされちゃうんだろうなあ♡

【なので、棒読み風にしながら、わざとえっちな事を言って主人公を煽る】

先生ってば、私のおっぱい飲まないと生きていけないもんなー♡※

〈主人公〉

「……♥」

イヴ、右耳にささやく。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「少し間をあけてから。」

『わかってるんだから』という感じでゆっくりと。

すごく期待している。先ほどまでは半分諦めていて、独り言のような気持ちだったが、今は主人公がわかりやすくもじもじしているのだ。

しかし実際は『そんなに望むなら、仕方なく飲ませてあげよう』ではなく『早くえっちな事をしてほしい』というのが本音

飲みたいでしょ。さっきからずっと、私のおっぱいに頭押し付けてるもんね♥」

〈主人公〉

「……♥」

イヴ、上機嫌でにやにやと主人公を見つめる。

対する主人公は即答こそしなかったものの、露骨ににやにやしているので、これから何と返事するかは明白だ。

イヴ、あくまで『仕方なくしてあげる』風にスタンスを取りつつも、これからえっちな事をしてもらえそうで、ものすごく嬉しい。めちやくちやに興奮している。

また、そんな自分の思惑すら、主人公にはバレバレな事もわかっている。

〈主人公〉

「飲みたい……♡」

イヴ、望み通りの言葉が聞けて、満足げに微笑む。

それから、中央・上気味の位置に戻る。

●中央 やや上

「にやにやと嬉しそうに」

いいよ♡

【しつこく、無意味に疑う】

キス魔の先生が浮気しないように。

彼女のおっぱいが一番だってわかついてもらわないとね♥」

イヴ、言いながら、自分の服をめくり、主人公に自分の胸を見せつける。

今日の変装は、まず『ぱっと見に自分だとわかりにくくする事』が最低条件だった。けどそれと同じ位『すぐに脱げる、すぐにセックスできそうな服である事』も、とても重要な条件だったのである。

結果イヴは、この二つにしっかりと合致する服装を選んだ。

たとえ酔った主人公が途中で寝てしまうかもしれないなくても、主人公といちゃいちゃできる可能性を信じて、しっかり準備しておきたかったのだ。

そんな自分の気持ちを、主人公にはぜひわかっていただきたい。

自分がどれだけ主人公との時間を待ち望んでいるか、理解してほしい。

SE11 イヴが自分の服をたくし上げる音

【最初から最後まで流す】

イヴ、そんな思いで自分の下着姿を見せながら、主人公を上目遣いで見上げる。

イヴの下着は、かつてはシンプルで機能的重視、でも、自分なりにこだわったものを



……。という方向で、それなりにいいものをつけていた。

なのに、今じゃシンプル系はほとんどつけない。

すっかり主人公好みで、主人公を誘惑するためだけにセレクトをしている。そんな、ちよっと背伸びしているのに媚び媚びの、アルバイトして買った、かわいくてえっちな黒のレースのブラジャーを見せながら、イヴはゆっくりとささやく。

イヴ、中央の位置のままささやく。

●●中央 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「少し間をあけてから。ゆっくりと。」

※マークまで、すごく恥ずかしいが、それ以上に激しく期待している感じで「ほら……実はさっき。」

よろけた時にブラずれて。

『乳首』を特に恥ずかしそうに。

廊下が薄暗いので主人公は見逃していたが、よく見るとブラジャーが少し下にずれており、本来カップに隠れるはずの乳首が露出してしまっている」  
乳首こぼれちゃった。

「少し間をあけてから。」

切なげに、えっちな言葉で主人公を誘惑する。

『勃ってる』は『乳首』に比べて、比較的さらりと言う」

すごい擦（こす）れちゃって、めっちゃ勃ってるから。

今なら飲みやすいよ……♡」※

〈主人公〉

「……♡」

SE12 イヴが自分のブラジャーをずらし、露出した胸を主人公の顔に近づける音

【最初から最後まで流す】

イヴが言い終える前に、主人公が、ぐくりとつばを飲み込んだ。

イヴはそれを確認しながら、たてようもないほどの喜びと期待と興奮に満たされる。

だから、イヴはさらにブラジャーを下にずらして、胸全体を露出させる。

それから右胸を取り出すように下から持ち上げて……主人公に見せながら、今度は右耳にささやいた。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「優しく、えっちにささやく。

自分の右胸を下から持った状態で吸うように促す。『やーらかいよ』は『私の胸はとても柔らかいよ』という意味」

ほら。持つて。やーらかいよ」※

〈主人公〉

「うん……♡」

●右 至近距離

「少し感じて喘ぐ。主人公が、自分の生の胸を持ち上げたので」

ん♡」

〈主人公〉

「……はあ……♡ イヴちゃん、おっぱいの下、ちよつと湿ってる……♡」

主人公がイヴの生の右胸を持ち上げ、やわやわと揉みながら、嬉しそうに言う。

それだけでイヴはどうかかなりそうだが、まだそれは早い。今は主人公の動向を優しく見守り、好きなようにしてあげる必要がある。

ところで、イヴにはどうして胸の下が湿っていると嬉しいのかはわからない。だが『たとえば逆の立場だったら？』と考えると、なんとなくわかるような気もしてくる。

興奮の象徴のようにじっとりと濡れたそこは、確かに何だかいやらしいからだ。

### ●右 至近距離

「復唱というよりは『もしかしてちよつと汗かいてる？』と尋ねている感じで」  
ちよつと汗かいてる？

「特に申し訳なく思っではない。主人公であればこれを気にしないだろうし、むしろ喜ぶと変態だという事を理解している」

へへ。ごめんね」

### 〈主人公〉

「汗かきおっぱい、すごいえっち……♡」

そして主人公もまた、同じように思っていたようだ。

独り言のようにつぶやくと、まさに汗に濡れている部分を、包むように揉みしだく。

それから吸い寄せられるように胸に顔を近づけて……そのまま、はむっとイヴの乳首に吸い付いてきた。

●右 至近距離

「小さな声で高く甘い声を漏らす。乳首を吸われたので」

あ………  
「♡」

主人公、イヴの右胸を持ち上げたまま、ゆっくりと、でも熱心に乳首を吸い始める。それと共に、慣れた手つきで音もなくブラジャーのホックを外し、肩紐もずらして、よりイヴが楽なように、より自分が触りやすいように脱がしてくる。

おまけに、当たり前のようにもう片方の胸も触り始めた。

まるで、今日こうなる事を願って、イヴが比較的ワイヤーのしっかりしていないブラジャーを選んだ事まで把握しているかのようだ。

それは明らかに、イヴと『やり慣れている』からできる事だ。

これにイヴは、ますます呼吸を荒くしていく。

もつとめちやくちやにされたい。

今日も優しく、でも絶対逃げられない位、ぐちやぐちやに犯してほしい。

イヴ、そんな事を思いながら、主人公の頭を優しく抱き、好きなようにさせてあげる。そうするうちにも、はあはあと興奮は強まっていく。

イヴ、このまま右耳に話しかける。

主人公がイヴの胸を持ち上げて吸っており、胸が大きいとだいぶ上まで上がるので、話しかける位置は変わらない。

### ● 右 至近距離

【※3回※】 とてもゆっくり、甘く呼吸する。

右胸をたくさん揉まれ、右の乳首を愛撫されてとても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで】

はあ。はあ。ふう。

【※1回※】 さらに、とてもゆっくり、甘く呼吸する。

右の乳首を愛撫され、気づけば両胸を揉まれ始めてとても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで】

ふー………♥

【高く、小さな声で甘く喘ぐ。

特に感じてしまったので」

あ♡

【※2回※ ゆっくり、甘く呼吸する。

とても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで」

はあ。ふう。

【※1回※ さらに、とてもゆっくり、甘く呼吸する。

主人公の遠慮のない胸の揉み方が、恥ずかしくもとても気持ちいいが、まだ耐えられる  
感じで」

ふー……♡

【少し間をあけてから。

※マークまで優しく。ゆっくりと尋ねる。

主人公がとても嬉しそうに乳首を吸っているので。

『おいしい?』が『おいしい?』と赤ちゃん言葉になる】

……おいしい?

よかったね♡ 今日も、好きなだけ飲んでいいよ。

寝る前にママ彼女のお乳飲んで、お腹一杯になって寝ようね♡ ※

【低く、小さな声で甘く喘ぐ。

主人公が乳首を、ほんの少しだけ強く吸ったので】

あ。

【※2回※ ゆっくり、甘く呼吸する。

とても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで】

はあ。はあ。

【※1回※ さらに、とてもゆっくり、甘く呼吸する。

おもちゃのように両胸をたくさん揉まれ、とても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで】

はー……♡

【※2回※ とてもゆっくり、甘く呼吸する。

ひとつ前よりも呼吸がゆっくりになる】

はー♡ はー♡

【※1回※ さらに、とてもゆっくり、甘く呼吸する。

右の乳首を愛撫されてとても気持ちいいが、まだ耐えられる感じで】

はー……♡

【低く、小さな声で甘く濁音喘ぎする。

主人公が、吸っていない方の乳首を指で刺激し始めたので】

“あ……♡

【少し間をあけてから。

低く、すごくゆっくり、小さな声で甘く濁音喘ぎする。



主人公が、吸っていない方の乳首を指で刺激しているので」

「あ。あ。あ」

【恥ずかしそうに。でも、本当は触ってほしい。

イヴは、乳首をちゅうちゅう吸われながら、優しくこねられるのが大好き】

……あ♡ すっごい当たり前みたいにおっぱい触るしい……♡

【低く、小さな声で甘く喘ぐ。

主人公が乳首を、ほんの少しだけ強く吸ったので】

あ♡」

イヴ、主人公の酔っているくせに、いつもと変わらぬ手慣れた手つきと吸い方に、滅茶苦茶感じてしまう。

交際を始めてから半年間、主人公は、イヴの想像をはるかに超える程えっちだった。おおむねそうさせたのはイヴであり、イヴ自身も、己に相当な責任はある事は自覚している。

だが……それにしただって想像以上だった。

だって主人公は、最初はたどたどしかったのに。だんだんイヴの感じる場所や喜ぶ触り方を覚えて、次第に大胆になっていった。

優しく気遣いながらも、時には容赦なしで攻めたり、いじめたりして、どんどんイヴを

夢中にさせていった。

だからイヴは、気が付けばセックスが大好きになってしまった。

『自分はこのなにもキスやハグやえつちな事が大好きで、日常的にしてほしいと願っている』『だから、隙あらば自分からおねだりしてしまうし、逆に、求められれば、いつでも喜んで応じる程性欲が強いのだ』と、骨身にしみるほど理解してしまったのだ。

### ●右 至近距離

「高く、小さな声で甘く喘ぐ。

びくつと震えるほど、すごく感じてしまう。

左の乳首の真ん中を、指の腹でぶにぶに、くるくる押されたかと思うと、親指と人差し指で根元を持たれて『きゅっ♡』とひねられたので」

あ♡ あっ……♡

「低く、小さな声で甘く喘ぐ。

そのまま乳首を、人差し指の腹ですりすりとの的確に刺激されるので」

ああ。ああ……♡

「少し間をあけてから。

低く、小さな声で甘く喘ぐ。引き続き乳首を、指の腹ですりすりとの的確に刺激されるので。

だんだん呼吸のペースが、少しずつ早くなってきている】

【※3回※】  
とてもゆっくり、甘く呼吸する。

だんだん呼吸のペースが、少しずつ早くなっている」

【少し間をあけてから。

荒い呼吸ながらに、甘々に指摘する。

『乳首いじりながらじゃないの？』とおっぱい吸えないの？』と尋ねている」

おっぱい揉んだり、先っぽくにくにしたりしながらじやないとお乳飲めないの？」

## 主人公

「飲めなあい♡」

● 右至近距離

「息づかいのみで表現する。」

悪びれもせずえっちな事を言われて、ますます興奮してしまう】

⋮  
S  
⋮  
♥  
└

〈主人公〉

「それにイヴちゃん、こうした方がいっぱいお乳出るでしょ♥  
気持ちいい方が好きだもんね♥」

●右 至近距離

「甘々の切ない声で。

甘々に抗議しつつも、すごく嬉しい。もっと主人公にえっちな事を沢山されたい。  
何をどうしたって『お乳が出る』なんてありえないのに、あたかも本当にそうなるかの  
ような感じで会話している事が、とても恥ずかしく、興奮する」

変態赤ちゃんだからあ……♥

「低く、小さな声でうめくように喘ぐ。

ものすごく気持ちいい」

……ん。……あ。あ……♥

「甘々の切ない声で。何とか話す。

主人公を甘えさせるつもりだったのに、これでは、主人公に一方的なおっぱいを気持ち  
よくしてもらっているの何と変わらない。

めちやくちや気持ちよくて、目に涙がにじんでくる」

もお。それ、ほんとヤバいんだけど……♡

【少し間をあけてから】

先生、ベビーの癖にえっちうすぎ♡

『本当に母乳の出る身体だったら、吸われすぎて、母乳の生産が追い付かなくなりそう』  
という意味で言っている】

マジにおっぱい出る身体だったら、作るの追いつかなくなりそう……♡

【低く、小さな声で甘く喘ぐ。

ものすごく気持ちいい】

あ。……あ、あ。

【少し間をあけてから。

低く、小さな声で甘く喘ぐ。

ものすごく気持ちいい】

ん。

【※3回※ 荒く呼吸する。

興奮して、呼吸のペースが、早くなってきた】

ふーはあ。ふーはあ。ふーはあ……♡

【少し間をあけてから。

なんとか気持ちを落ち着かせようとしたのに、かえって興奮が増すような事を言っ

もう」

てか、玄関でおっぱい出してるのやばいね……♡

こんなとこ誰かに見られたら、変態は私の方じゃん……♡

【少し間をあけてから。喘ぎながら話す。

呆れている風を装いつつもものすごく嬉しいし、興奮している。

主人公がじつくりと、でも容赦なく気持ちよくしてくるので】

んっ……あ。ほんとに吸いすぎ……♡

【高く、小さな声で甘く喘ぐ。

特に感じてしまったので】

あ♡

【※3回※ 荒く呼吸する。

興奮して、呼吸のペースが、早くなってきている】

はー。はー。はー。

【※3回※ ゆっくりと、荒く呼吸する。

興奮を抑えようと、何とか頑張る】

はー♡ はー♡ はー……♡

【低く、小さな声で甘く濁音喘ぎする。

主人公が、胸を揉みながら両方の乳首を、イヴの一番好きな強さで刺激したので】

“あ。

【高い声で、声を必死に抑えるように、いくのに耐えるかのようにゆっくり喘ぐ。  
めちやくちやに感じてしまったので】

くうう……♡

【※3回※ 早く、とても荒く呼吸する。

気持ちよすぎて目を見開き、目に涙をにじませながら】

はっ♡ はっ。 はー♡

【※3回※ とても早く、とても荒く呼吸する。

油断すると、おっぱいだけでイってしまいそうなのに耐える】

はー。 はー。 はー……♡

【※マークまでかなりとろとろになっている声で、しかしそれを隠すようにゆっくりと話す。

ここでふと話題を変える。

『このまま負けっぱなしではいけない、ここから少しは反撃したい』と思っている】

……あ。 そうだ……♡

なんだっけ。昨日テレビで見たんだけどね。

人間の身体って、手の平で横に撫でるより。

指先で、縦に『っー』って触る方が気持ちいいんだって♡

※

【少しだけ余裕を取り戻して。

主人公が『そうなんだ』と興味ありげに自分を見上げたので  
やってみていい?」

主人公、イヴの乳首を吸ったままイヴを見上げると、にっこりと頷く。  
そのまま素直に、イヴに身を任せてくる。

イヴはそれを愛おしく思いながら、そっと触り始めた。

イヴ、右耳にささやきながら触る。

●● 右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「優しく、少しいたずらっぽくささやく。

ちやうど触り始めたところ」

どう?

【少し間をあけてから。

少しいたずらっぽくささやく。

主人公の反応を見ながら、少し触り方を変えている】

こうかな」※



〈主人公〉

「んっ……っ♡」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「少し間をあげてから。」

楽しみに笑って。

主人公の反応が良くなってきたので嬉しい」

ふふ♡ くすぐりたい？」※

〈主人公〉

「あ……っ♡」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「楽しみに笑って。」

さらに主人公の反応が良くなってきたので嬉しい」

あー♡ ピクってした♡ ふふふふ」※

〈主人公〉

「あ…………！」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【楽しみに笑って。ようやく主導権を握り返しつつあるので】  
ふふふ。そんな良（い）い？」

【ふいに、優しくささやく。】

主人公がびくつと感じるあまり、乳首から口を離してしまったので」

※特に聞き手をドキツとさせるイメージでお願いします  
ほらほら、お乳飲む口が止まってるよ？」※

〈主人公〉

「だってえ…………♥」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【優しくゆつくりと。でも、ちよつとからかうように】  
ほーら。もつとなでなでしてあげるから。

頑張れ♥」※

イヴ、主人公の反応を楽しみながら、一度ささやくのをやめる。  
頭を右耳側へ移動して、小さな声で話し始める。

● 右 至近距離

「『楽しい』に。ちよつとからかうように。」

『自分だけが主人公のこんな一面を知っている』という事実には優越感を感じている』  
ふふふふ♡

「ゆっくりと、言い聞かせるように。」

『私にする』というのは『セックスで主人公が攻めに回る』という意味』

先生、私にする時は、ちよつと強引だし、えっちだし。

『『強お』というのは『強い』という意味。』

この場合は『セックスがうまくて、主導権をしっかりと握ってくる』という意味』  
強（つよ） おって感じなのに。

『『自分がされる』というのは『セックスで主人公が受け身になる』という意味』  
自分がされる時はすぐビクってなって、よわよわだね♡」

〈主人公〉

「……っ♥」

イヴ、再びささやく。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「甘く優しく。愛情をこめて、でもちよつと優越感を感じながら」

……大好き。一生、そのままできてね♥

【少し間をあけてから。

優しく、少しいたずらっぽくささやく】

ていうかもうさあ。触ってほしくなってるでしょ。

【『言ってよ』が『ゆってよ』になる】

ゆってよ♥

【少しニヤニヤと、いやらしく促す。

普段主人公にされていることをして反撃しているイメージ】

『クリさん触って下さい』って♥※

〈主人公〉

「……っうう……っ♥」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく  
「甘く優しく。愛情をこめて、でもちよつと優越感を感じながら」  
触んなくていいの？」※

ダメ押しのようにイヴがささやくと、主人公が観念した表情を見せた。  
先ほどは、ふだんしているままにイヴを攻めていたから主導権を握っていたが……。  
本質的には、今は酔っぱらって思いつき甘えたいモードなのだろう。  
であれば、ぜひそうさせてあげよう。  
そう思いながら、イヴは主人公の顔を正面から見つめ、次の言葉を待った。

イヴ、主人公の顔を見るために中央に戻る。

〈主人公〉

「うう……。♡ イヴちゃん。クリさん触って♡」

●中央 至近距離

「【楽し気に。ちよつとからかうように】」

ふふふ。

【少し間をあけてから。

わざと即答しないが、もちろんOKする】

いーよ♥」

イヴ、中央の位置のままささやく。

●●中央 ささやき ※マークのセリフまでささやく

【甘く優しく。愛情をこめて、でもちよつと優越感を感じながら】  
スカート自分でめくれる？

【少し間をあけてから。

嬉しそうに。主人公が甘えるように。ふるふると首を振ったので】

めくれないんだ♥

【少し間をあけてから。

甘く優しく。愛情をこめて】

いいよ。このまま手え入れちやうから♥」※

SE13 イヴが主人公のスカートの中に手を入れる音

【最初から最後まで流す】

SE14 イヴが主人公の股間を愛撫する水音

【最初から最後まで流す】

イヴ、主人公の右耳側に戻ってささやく。

イヴが言葉のままにスカートの中へ手を入れ、下着の中を確認すると、そこはすつかりとろとろに濡れそぼっていた。

イヴはこれに、ぞくぞくするほど興奮する。

主人公の性器は、ちよつと動かすだけでくちゆくちゆと想像以上の音が響き、思うように指を動かせないほど、ぐちゆくちゆのぬるぬるになっている。

イヴはそれが嬉しくて、ますます主人公の羞恥心を煽っていく。

● ● 右 ささやく ※マークのセリフまでささやく

「甘く優しく話そうと意識しつつも、ものすごく興奮して。」

主人公が自分の胸を吸う事で興奮しており、また、自分に触られてとても気持ちよかったらしいという事がわかったので」

はー……♡

【少し間をあけてから。

かなり興奮して】

やっぱぬるぬるじゃん……♡

【少し間をあけてから。

あくまでしれっと、いつものトーンでえっちな意地悪を言う】  
濡れすぎてて、クリ上手く見つけられないんだけど♡※

SE15 イヴが主人公の股間を愛撫する水音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【セリフとかぶせて流す】

【▲1 で一段階スピードが速くなる】

【▲2 でフェードアウトする】

〈主人公〉

「……………♡」



主人公、恥ずかしそうにしつつも、すでに快感を求める気持ちが羞恥心に勝っているの  
だろう。

すぐに自分から、しかも夢中で腰を動かし始める。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「主人公が、イヴがクリトリスの位置を見つけやすいように、腰を動かし始めたので」  
ふふ。そう♡ 手伝って？

【優しく言い聞かせるように促す】

ちゃんと自分で腰動かしながら、クリに当たるようにして、ママに場所教えて？

【声音は優しいまま、意地悪を言う】

おっぱい吸うのやめたら、触るのやめちゃうからね」※

こうしてイヴは、乳首を吸われながら、主人公のクリトリスを愛撫する。

主人公から与えられる、甘くしびれるような快感に耐えながら、負けじと主人公を気持ちよくしようと、本気になる。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「くすくすと嬉しそうに。ゆっくりと。」

主人公がとても気持ちよさそうなので」

ふふ。気持ちいい？ わかるよ。身体めっちゃびくびくしてるもん♡

【少し間をあけてから。

愛おしげに、とても優しく」

一杯気持ちよくなってるね……♡

【少し間をあけてから。

低く、甘い声で喘ぐ。主人公が再び胸を愛撫するのにも注力し始めたので」

んっ……♡

【低く、甘い声で喘ぐ。

だんだん声が低く、ウイスパーになる」

あ。あ。あ。

【ゆっくり呼吸して、快感に耐える」

ふう……♡

【少し間をあけてから。

ゆっくりと。余裕のあるふりをして。

とても気持ちいいが、何とか話す」

そうだよ。このまま沢山おっぱい飲んで。

【『ママ彼女』とは『ママであり彼女でもある女性』という意味】

ママ彼女にクリいじってもらって。

【達すると、どろっと愛液があふれてくる事を『透明のぬるぬる、とろって出す』と表現している】

透明のぬるぬる、とろって出して気持ちよくなる ♡

【※3回※ ゆっくりと、荒く呼吸する。

ものすごく気持ちいい。快感を抑えようと、何とか頑張る】  
はあ。はー。はー。

【※3回※ さらにゆっくりと、荒く呼吸する。

ものすごく気持ちいい。どうにか興奮を抑えようと、何とか頑張る】  
はーっ。はーっ。はー…… ♡

【低く、甘い声で喘ぐ。

だんだん声が低くなる】

……うあ。あ。あ ♡

【※3回※ さらにもう一段階ゆっくりと、荒く呼吸する。

気持ちよすぎるが、なんとか耐えている】

ふう……ふう……ふう…… ♡ ※

〈主人公〉

「……イヴちゃん♥ 気持ちいい……?」

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「何とか返事する。」

自分、つまりイヴが気持ちいいかどうかにも気にしてくる主人公がいとおいしい」  
んー……?」

【少し間をあけてから。

何とかか返事する。すごく嬉しいし、幸せな気持ちだが、返事するのが精いっぱい」  
うん♥ 私も気持ちいいよ♥

【優しく。嬉しい気持ちを伝えたくて、『気持ちいいと感じている根拠』を述べる】  
知ってるでしょ?」

私のおっぱいさあ。

先生が毎日♥ 暇さえあれば触ってくるから……♥

やばい位敏感になっちゃってるの♥

【※3回※ ゆっくりと、荒く呼吸する。

快感を抑えようと、何とか頑張る】

はあ。はー。はー。

【快感に耐えるように呼吸する。ものすごく気持ちよかったので】

はっ……♡

【少し間をあけてから。

低く、ゆっくりと、耐えるように喘ぐ。めちやくちや気持ちいい】

あ。あ。あ。

【独り言のようだが、ちゃんと主人公に伝えたくて言っている。

『主人公の愛撫は気持ちよすぎる』という意味で言っている】

ほんと、先生のえっちやばいんだ……♡

【うっとり、独り言のように。

ぼんやりしてしまうほど感じている。

今は自分が攻めている側である事すら忘れそうなほど気持ちいい】

すっごい気持ちいい……。

【甘々に。主人公が大好きという気持ちがあふれる】

好き。大好きだよ。先生♡

ずーっとこうやって。一生一杯、えっちしようね♡

【少し間をあけてから。

低く、ゆっくりと、耐えるように喘ぐ。めちやくちや気持ちいい】

あ。

【声が高くなって喘ぐ】

ああ♥

【※3回※ ゆっくりと、荒く呼吸する。

快感を抑えようと、何とか頑張る】

ふう……ふう……ふう……♥

【少し間をあけてから。

何かを思いついたように】

そうだ……♥※

〈主人公〉

「……………」

イヴ、主人公の気持ち嬉しくて、さらに張り切る。

主人公が特に好きなのをしてあげながら、イかせてあげたいという気持ちが強まる。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【※1回※ 耳にキスする。

ちゅ♥

【少し間をあけてから。

かなり興奮しながらも、優しくささやくように、ゆっくりと触りながら話す。とても嬉しいので、自分も思いつき主人公を気持ちよくしてあげたい」

これ、好きでしょ？

クリの横っ側（かわ）さすって。もっと勃起させて。

皮剥けてる生（なま）クリ、ゆっくり擦って♥

【ゆっくりと。

指の動きに合わせて話しているイメージで】

止めて。擦って。止めて♥

【ギリギリイかない程度の快感を断続的に与えながら話す】

軽く『あぁっ……♥』ってなる位の、甘（あま）イキ繰り返すの……♥」※

〈主人公〉

「……っ……♥」

主人公、イヴの乳首を吸いながら、びくっ♥　びくっ♥　と、これまでよりも大きめに震え始める。

イヴ、それがいきそうなサインと理解し、激しく興奮しながらも、優しく促す。

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「少し間をあけてから。」

意識してゆつくりと。

興奮して、油断すると早口になりそうなので。

主人公がいよいよ余裕なくなり、いきそうになってきたので  
「いいよ、いいよ。背中そってきたね♥」

「とても優しく」

そろそろいきそう？

【※3回※ ゆつくりと呼吸する。

愛撫に夢中になっているイメージで】

はーっ♥ はーっ♥ はーっ。

【※3回※ さらにゆつくりと、荒く呼吸する。

愛撫に夢中になっているイメージで】

ふーっ。ふーっ。ふーっ……♥

【少しだけ早口で。

主人公をイカせたいが、自分もかなり気持ちよくて余裕がない。  
それでも、何とか伝えようとしている」

いつでもイっていいよ。好きな時にイっていいからね……♥」



〈主人公〉

「……………」  
♥

するとここで、主人公が物欲しげな目でイヴを見上げた。

乳首を舐めながらしつかりイヴを攻めてくるくせに、これだけでは何だか足りなさそうな様子だ。

イヴ、中央に戻る。

それとともに、主人公も乳首から唇を離し、愛撫が一時的にやむ。

● 中央 至近距離

「優しく尋ねる」

んー……………?

「主人公の様子から、してほしい事を察する。

半分はこれまでの経験に基づいているし、半分は自分の願望である」  
最後はちゅーしたいの？

乳首じゃなくて、お口とキスしてイきたいの？

【甘々に。すごく嬉しい。

主人公が恥ずかしそうに、でも嬉しそうにうなずいたので】

いいよ………♥

▲1 ここでSE15が、一段階スピードが速くなる

★【※20秒※ キスする。イヴから積極的にキスして、すぐに舌を絡める本気キス。

イヴは、主人公とディープキスしたまま主人公をイかせようとしている】★★★★★

んっふ……ちゅ♥ちゅ♥ちゅ♥ちゅばっ……くちゅっ♥ちゅ♥れろっ……く

ちゅっ……ちゅっ………♥

【ここで主人公が達する。

主人公の身体を支えながらディープキスし続けるので、慣れている行為とは言えど、少し苦しい】

んんんう………♥

▲2 ここでSE15が、一段階スピードが速くなる

【※3回※ さらにゆっくりと、荒く呼吸する】

ふう。ふう、ふー……っ♥」

SE16 イヴが主人公の背中をとんとんする音3

【最初から最後まで流す】

【セリフとかぶせて流す】

●●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「とても優しく。ゆっくりと。

達したばかりで疲れてしまっている主人公を、そつとあやすように】

よしよし……♥ 可愛かったよ。先生♥

上手にイけたね……♥

【満足げに。今日も主人公を気持ちよくできた事が嬉しい】

よし、よし……♥ 大好きだよ、先生♥」

ここでフェードアウトして終了。